

第五十一回帝國議會
衆議院

郵便年金法案

(政府提出) 外一件 (郵便年金法案(政府提出)
郵便年金特別會計法案(政府提出))

委員會會議錄

(速記) 第二回

會議

大正十五年三月五日(金曜日)午後一時
三十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 作間 耕逸君

理事 戶田 由美君

理事 上原 好雄君

平野 光雄君 中原徳太郎君

深井 功君 石塚 三郎君

平田民之助君 富田愿之助君

佐藤 重遠君 山口 左一君

出席國務大臣左ノ如シ

逓信大臣 安達 謙藏君

出席委員左ノ如シ

逓信政務次官 頼母木桂吉君

逓信參與官 川崎 克君

簡易保險局長 今井田清徳君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

郵便年金法案(政府提出)

郵便年金特別會計法案(政府提出)

○作間委員長 ソレデハ是ヨリ會議ヲ

開キマス、前回ニ引續キ質問ヲ行ヒマ

スルガ、平野君何カ議事進行ニ付テア

リマスカ

○平野委員 只今此議場ノ光景ヲ見マ

スルノニ、故意カ偶然カ分リマセヌケ

レドモ、政友會ノ諸君ガ御一人モ見エ

マセヌ、想起スコトハ昨日ノ當委員會

ノ席上ニ於テ、若宮君カラ政府ノ參考

書ノ配付ヲ受ケテ之ヲ目ヲ通ス暇ガナ
カッタカラ研究ノ餘裕ガナイ、政府ハ此
案ヲ作ルニ付テ三年又五年掛ツテ作ッ
案デアル、ソレヲ吾々ニ半日一日ヲ以

テ調ベロト云フコトハ不可能デハナイ

カ、斯ウ云フ理由ノ下ニ若宮君ハ此委

員會ノ議事ノ進行ヲ多少延バセト云フ

御説デアリマシタ、ソレカラ想起シテ、

或ハ昨日ノ若宮君ノ申サレタコトモコ

ダハリトナツテ、或ハ今日故意ニ御出席

ニナラナイノカモ知レマセヌ、成程政

府ガ參考書ヲ御配付ニナッタト云フコ

トハ手遅レノ點モアリマセウ、アリマ

セウケレドモ、此參考書ヲ讀ム上ニ於

テサウ三四日ヲ要スルモノデハナイ

ト思ヒマス、吾々モ逓信事務ニハ素人

デアリマスガ、昨日頂戴シテ、昨夜マデ

ニ一通リ讀上ゲマシタ、中學校ノ生徒

ガ試験ヲ受ケルト云フナラバ、兎モ角、

逓信事務ニハ多年通曉セラレテ居ル若

宮君ノコトデアル、吾々素人ガ見テモ

半日ノ餘裕ガアレバ兎モ角見ルコトガ

出來ル、何モ暗記スルト云フ必要ハナ

イ、ソレヲ若宮君ガサウ云フ理由ノ下

ニ此議事ヲ延サレト云フコトハ、私

ハ甚ダ不審ニ堪ヘナイト思ヒマス、今

日ハ或ハ後刻政友會ノ諸君ガ御出ニナ

ルカモ知レマセヌ、或ハ御出ニナラナ

イカモ知レマセヌ、而モ政友會ノ諸君

ガ一人モ御出ニナラナイ際ニ今日質問

ラ打切ルト云フコトハ、是ハ或ハ不穩

當ト思ヒマス、何レ尙ホ一回位ハ質問

繼續サレルモノトシテ委員長ニ於テ御

計ヒヲ願ヒタイト思ヒマス、兎ニ角今

日ハ政友會ヲ除イテノ各派ノ諸君モ御

列席デアリマスカラ、審議ヲ重ネラ

レンコトヲ願ヒマス是ガ一ツ、今一ツ

ハ昨日私が最後ニ郵便年金ノ實施ニ伴

フ被保險者ノ數、或ハ契約高及事務費等

ニ付テ、若シ概算書ノヤウナモノガア

リマシタナラバ、御出シヲ願ヒタイト

言ツタ所ガ、既ニ才前ノ手許ニヤッテ居

ルト云フコトデアリマシタガ、私ハ不

敏ニシテ、頂戴シタ書類ニ直グ眼ヲ通

シタ所ニ依ルトアリマセヌ、ソレデ今

日參リマス、ソレニ似寄ッタモノガア

リマスガ、或ハ昨日貰ッタモノヲ私方見

損ナッタカモ知レマセヌ、是ハ私ノ方ノ

眼ガ霞ンデ居ッタカ、或ハ參與官ノ方ノ

思違デアルカ、昨日ノ速記ニ殘ッテ居ル

トスレバ如何ニモ私がボンヤリシテ居

ルヤウニ見エマス、速記ニナケレバ宜

シウゴザイマスガ、アリマスレバ參與

官カラシテ、昨日吾々ノ手許ニ届イテ

居ッタカドウカト云フコトヲ御辯明ヲ

願ヒタイト思ヒマス

○川崎政府委員 只今平野君カラ御尋

心得テ居リマシテ、私ノ思違デアリマシ
タ、ソレハ今朝御手許ニ配付致シマシ
タ

○作間委員長 皆サンニ御諮リヲ致シ

マス、只今平野君ノ議事進行ニ付テノ

御意見ハ私ニ於テモ諒承致シマシタ、

就テハ本日ハ御出席ノ方々ニ於テ十分

御質問ヲ爲サレ、更ニ今一回質問ノ爲

ニ會議ヲ開クコトニ致シタイト思ヒマ

ス、其時ニハ特ニ私カラモ政友會諸君

ノ出席ヲ勸告致シマス、サウシテモ尙

ホ出席ヲセラレナイ場合ニ於テハ、委

員長ハ皆サンニ御諮リヲシタ上デ適當

ト認メタル處置ヲ講ズルコトニ致シマ

ス、ソレデハ本日御出席ノ方デ質問ヲ

進メマス、御質問ノアル方ハ御發議ヲ

願ヒタイト思ヒマス

○戶田委員 私ハ全然斯ウ云フコトニ

知識ノ無イ者デアリマスカラシテ、私

ノ御伺スルコトハ、委員トシテ御伺ス

ルニハ餘リ幼稚ナ質問ニナルカトモ思

ヒマスガ、質問スル私ノ便宜ノ上カラ、

二三ノ點ニ付テ當局者カラ御説明ヲ願

ヒタイト思フノデアリマス、先ヅ第一

ニ年金法ニ掲ゲラレタル年金ノ種類ハ

色ミアルヤウデゴザイマスガ、其一々

ニ就テドレガドウト云フコトヲ意味ス

ルノデアアルカト云フコトガ大體私ニハ

能ク吞込メテ居ラヌノデ、ソレニ付キ

マシテ一應洵ニ御手數デゴザイマス
ガ、大略ノ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス、私共ガ戴イタ參考書類中ニ於キマ
シテ、年金掛金表ト云フモノニ載ッテ居
ル——目次ノ第一頁ニ載ッテ居ル種類
ガ十二掲ゲテアルノデアリマス、是ガ
大體今回御提出ニナリマシタ年金法ノ
種類ダト云フヤウニ考ヘルノデアリマ
スガ、第一カラ十二ニ於ケル各種類ニ
付キマシテ、大體ドウ云フモノデア
ルコト云フコトノ御説明ヲ願ヒタイト
思フノデアリマス、例ヘバ目次ノ第一
項ニ在リマス年金法ノ元金拋棄據置年
金ト云フモノハドウ云フモノデア
ルカ、或ハ第五ノ元金拋棄據置年金、
是モ同ジ表題ニハナッテ居リマスガ、
掛金ノ所ニ於テ一時拂ト年拂トノ違
ヒガアリマスガ、一ツ此大體ノ御説
明ヲ煩シタイト思フノデアリマス

○川崎政府委員 年金ノ保險ニ關シ
マスル種類ハ、御手許ニ配付シマシ
タ參考書類ニモアリマス通り、外國
デヤッテ居リマス、幾種類モアリマ
ス、幾種類モアリマス、今度政府デ
開始致シマセウト思ヒマス、終身年
金デアリマス、而シテ此終身年金デ
アリマス、之ヲ或種ノ定期年金、即
チ年限ヲ切ッテ契約ヲ致シマスル
モノト違フノデアリマス、生存中ハ
終身或ル一定ノ年齢カラ年金ヲ積
ムト云フコトニナルノデアリマス、
而シテ此元金償還及元金拋棄ト云
フコトニ付キマシテ、

今御質問ニナリマシタ點ハ、郵便
年金ノ性質カラ致シマシテ、大體ハ
元金拋棄ニ依ルモノガ當然デア
ルノデアリマス、即チ年金加入者
ハ、自己ノ生存ヲ條件トシテ年金
ニ加入スルモノデアリマスガ故
ニ、其生存ノ反對ノ死亡ガ起
タ場合ハ、其時ニ於テ年金開始
前ト雖モ、開始後ト雖モ消滅ス
ルト云フコトガ、此年金保險ノ生
存ヲ主トスル立前カラ當然來ル
ノデアリマス、併ナガラ斯様ナ
コトニスルナラバ非常ニ澤山ナ
掛金ヲシテ、サウシテ年金開始
前ニ當ッテ希望スルト云フコト
デアラナラバ、何十年モ掛金ヲ
シタモノガ全ク無ニナルト云
フコトニナリマス爲ニ、茲ニ元
金留保ト云フ契約ヲ爲スコ
トヲ得ル——當初ニ契約ヲ爲
スコトヲ得ル方法ヲ採リマシ
テ、元金留保ニ關スルモノニ付
キマシテ、六年金支拂開始前
ト雖モ、開始後ト雖モ、拂込
ヲ爲シタル元金ノミニ付テハ
無利子デ全額ヲ支拂スルト云
フコトニナッテ居ルノデア
リマス、隨テ政府ノ今度經營
ヲ致シマスル見方ニ於テハ、
大體日本ノヤウナ所デハ元
金留保ノ年金加入者ハ多
イモノト見マシテ、全體ノ九
分迄ハ元金留保ノ契約者アリ
トシテ事業經營ノ計算ヲ立
テテ居ルノデアリマス、年金
ノ種類ハ先程申上ゲマシ
タヤウニ、參考書ニアル如
ク種々アリマシテ、或ハ一
定期間ヲ以テ年金ヲヤル
モノモアリ、又癡疾ヲ起
シタ者ニ對シテハ特ニ年
金ヲ下付スル制度モ

アリ、又老病者等ニ對シテ特別
ノ年金ヲ下付スル制度モアリ
複雑極メテ居リマスガ、今度
ノ政府ノ年金ハ極メテ單一
ナ遣方デ終身年金ノ制度ヲ
採ッテ、サウシテ其遣方ハ元
金償還——元金留保ト元金拋
棄ト此二ツノ種類ガアル、
保ト元金拋棄ト此二ツノ種
類ガアル、而シテ一時拂
ト年拂ト間ニ一齡四十歳カラ
始マッテ八十歳ノ間ニ一時
拂ノ年金ニ加入シ得ルノ
デアリマス、分割拂ニ付テハ
十二歳カラ始マッテ五十歳
迄ノ間ニ加入スルト云フ立
前デアリマス、細カイ事ハ
御質問ニ應ジテ御答ヲ致
シマスガ、大體左様デア
リマス

○平野委員 昨日濱田君ニ續
イテ若宮君カラ質問ヲサレ
テ、川崎參事官及賴母木政
務次官ノ御答辯ガアッテ、
ソレハ此郵便年金ガ純社會
政策ノ趣旨カラ出テ居ルヤ
否ヤト云フ意味ニ於テ御
質問ガアリマシタ、之ニ對
スル川崎參事官ノ御答辯ト
賴母木政務次官ノ御答辯
トハ矛盾デハアリマセヌ
ガ、川崎參事官ハ專ラ郵便
年金ノ、否簡易保險ノ積
立金ノ運用ト云フ方面カラ
社會政策ノ實果ヲ述ベラ
レタヤウニ聽イテ居ル、
賴母木次官亦其半面ノ方
ヲ專ラ御説キニナッテ、詰
リ兩方デ保持シ合ッタヤ
ウナ形ニナッテ居リマシ
タケレドモ、聽ク者ニ於
テハ其間チグハグデハナ
イカト云フ感ヲ抱イタ
ノデアリマス、其間ニ

尙ホ繋ギ合セル御答辯ガ
アッタナラバ完結ノモノ
ト思ヒマス、ケレドモ、矛
盾デハアリマセヌガ、唯
片方ヲノミ兩方デ御答辯
ニナッテ爲メ、其間ニ聯
絡ガナカッタ、私ガ改メ
テ御質問シタイコトハ、
今日幸ヒ大臣モ御出席
デアリマスカラ、是ハ大
臣カラシテハハキリ御
答辯ニナッテ置イタ方ガ
審議ノ上ニ便宜デア
ルト思フ、私ガ想起シ
タコトハ、確力簡易保險
ノ通過シタ際ガ大隈内
閣ノ時ト思フ、其時ニ
今日政友會ニ居ラル
木下君ガ參政官デア
ル、箕浦遞信大臣ノ
時ニ矢張當時社會政
策ニ付テ、簡易保險
ハ果シテ社會政策ニ
立脚ノ下ニヤッテ居
ルカドウカト云フコ
トニ付テ大分質問ガ
アッテ、木下君非常
ニ困ラレテ居ッタ
ヤウニ記憶シテ居
リマス、社會政策
デアアルガ如クナ
イガ如ク、一面カラ
云フト社會政策ニ
見エル、又一面カラ
云フト遞信省ノ
事務ノ如ク見
エル、吾左様記憶
シテ居ル、今日
此不徹底ナ趣旨
ヲ繰返スト云
フコトハドウ
カト思フ、特ニ
社會政策ハ現
内閣ノ生命ト
スル政策デア
ル、勿論社會
政策ト云フ
意味ニ付テハ
非常ニムツ
カシイモノ
ダラウト思フ、
之ヲ的確ニ
明確ニ定義
スルコトハ、
殆ド如何ナル
學者ト雖モ論
議區々デア
ル、唯大要ヲ
摘ンデ言フ
ニ過ギナイ、
又政策問題
トシテハ爾
カラアル、
果シテ純
社會政策ト
云フモノ
ノ見地カラ
來テ居ル
モノカ、乃
至ハサウ
デナクテ、
之ニ和ス
ルニ遞信

尙ホ繋ギ合セル御答辯ガ
アッタナラバ完結ノモノ
ト思ヒマス、ケレドモ、矛
盾デハアリマセヌガ、唯
片方ヲノミ兩方デ御答辯
ニナッテ爲メ、其間ニ聯
絡ガナカッタ、私ガ改メ
テ御質問シタイコトハ、
今日幸ヒ大臣モ御出席
デアリマスカラ、是ハ大
臣カラシテハハキリ御
答辯ニナッテ置イタ方ガ
審議ノ上ニ便宜デア
ルト思フ、私ガ想起シ
タコトハ、確力簡易保險
ノ通過シタ際ガ大隈内
閣ノ時ト思フ、其時ニ
今日政友會ニ居ラル
木下君ガ參政官デア
ル、箕浦遞信大臣ノ
時ニ矢張當時社會政
策ニ付テ、簡易保險
ハ果シテ社會政策ニ
立脚ノ下ニヤッテ居
ルカドウカト云フコ
トニ付テ大分質問ガ
アッテ、木下君非常
ニ困ラレテ居ッタ
ヤウニ記憶シテ居
リマス、社會政策
デアアルガ如クナ
イガ如ク、一面カラ
云フト社會政策ニ
見エル、又一面カラ
云フト遞信省ノ
事務ノ如ク見
エル、吾左様記憶
シテ居ル、今日
此不徹底ナ趣旨
ヲ繰返スト云
フコトハドウ
カト思フ、特ニ
社會政策ハ現
内閣ノ生命ト
スル政策デア
ル、勿論社會
政策ト云フ
意味ニ付テハ
非常ニムツ
カシイモノ
ダラウト思フ、
之ヲ的確ニ
明確ニ定義
スルコトハ、
殆ド如何ナル
學者ト雖モ論
議區々デア
ル、唯大要ヲ
摘ンデ言フ
ニ過ギナイ、
又政策問題
トシテハ爾
カラアル、
果シテ純
社會政策ト
云フモノ
ノ見地カラ
來テ居ル
モノカ、乃
至ハサウ
デナクテ、
之ニ和ス
ルニ遞信

事務ノ取扱上ノ一ツトシテ便宜ノ爲ニ御計畫ニナツタモノカ、又此間川崎參與官ノ仰セラレタヤウニ此積立金ガ還元サレテ、地方ノ總テノ事業ニ潤ッテ來レバ、矢張立派ナ社會政策ニナル、是ハ確ニ理論トシテハ論ズベキ餘地ハアルデアリマセウガ、而モ其效果ニ於テハ立派ニ社會政策ニナル、而シテ相合シタモノハ、私ハ蓋シサウ極言シテ社會政策ト云フノミニ論據ヲ置キ、一點張ニ社會政策ヲ呼バハル必要ハナイモノト思フ、昨日ノ委員會ノ席上偶々兩參與官ノ御答辯ニ矛盾デハアリマセヌガ、チグハグノ點モアリマシタカラ、此際大臣カラシテ明確ニ御答辯ヲ得ルコトガ此議案ヲ審議スル上ニ於テ便宜デアラウト思フ

○作問委員長 便宜上川崎參與官ガ先ニ御答辯ヲ爲サルサウデアリマス

○川崎政府委員 昨日ノ事ニ付キマシテハ大臣ガ御出席ガ無カッタノデアリマスカラ、大臣ニモ能ク其前後ノ關係ヲ御承知ヲ願フコトガ便宜ト思ヒマスシ、又私カラ頼母木政務次官ト私トノ答辯ノ中ニ相違ノアッタト云フコトニ對スル辯明ヲ申上ゲテ置クコトガ必要ダト思ヒマスカラ申上ゲマス、昨日ノ若宮君ノ御質問中ニ濱田君ノ質疑ヲ受ケラレテ、若宮君ハ簡易保險ト郵便年金トノ相違點ヲ明ニシタ政府ノ答辯中ニ相違ノ點ガアッタト云フコトデ、ソレカラ更ニ私カラ申上ゲタノデアリマシ

タケレドモ、ソレニ附加ヘラレテ頼母木次官カラ答辯セラレタ要點ハ、簡易保險ハ主トシテ社會政策ニ立脚シテ立テタノデアアル、郵便年金ハ主トシテ社會政策ト云フ意味デナイト云フヤウニ程度ノ相違ガアルヤウニ大體說カレテ居ルノデアリマス、極メテ抽象的デアアルガサウ說カレテ居ル、ソレデハハキリシナイカラト云フノデ重ネテ若宮君カラ御尋ガアリマシタノデ、更ニ具體的ニ私カラ御説明申上ゲタノデアアル、決シテ頼母木次官ト私ト答辯ノチグハグハ無イト思ヒマス、速記録ヲ見レバ明白ダト思ヒマス、私ノ申上ゲタノハ簡易保險ヲ立法致シマシタ當時、只今御述ニナリマシタ如ク簡易保險ハ保險事業自體ガ社會政策ニ出發シテ居ル、極ク下級ナ薄資者階級ニ對シテ保險ヲ附スコトニ依テ、其保險事業自體ガ社會政策的意味ヲ持ッタモノデアアル、又同時ニ其資金ノ運用ハ限ラレタル社會政策的方面ニ向ケラレルノデアアル、故ニ簡易保險ハ二ツノ意味ニ於テ社會政策的ノ使命ヲ帶ビテ居ル、斯様ニ立法ノ當初カラ唱ヘラレテ居ルノデアアル、併ナガラ郵便年金ハ左様ナ意味デ說カレテハ居ナイ、是ハ一種ノ防貧制度デアッテ、中産階級及中産階級以下ノ人ニ對スル生活ノ安定保障ヲ得サス意味ニ於テ、即チ年金制度ニ依テ生活ノ安定保障ヲ得ル途ヲ付ケル一種ノ防貧制度デアルト云フコトヲ說イテ居

ル、其防貧制度自身ハ所謂社會政策ヲ意味スルモノデアラウト思ヒマス、ドノ程度ノ社會政策ヲ意味スルモノデアアルカ知レマセヌガ、所謂社會政策ヲ意味スルモノデアルト思フ、併シテ運用ノ點ニ至リマシテハ、必シモ社會政策的意味ニ運用スルノデナク、主トシテ公債ニ投資スルノデアアル、主トシテ公債ニ投資スルト云フコトハ、年金事業ノ維持上利廻リノ良イモノニ持ッテ行カナケレバナラヌカラデアアル、其所ニ保險ト程度ノ相違ガアル、公債及地方債ニ投資スルコトガ偶或ル意味ニ於テ社會政策ヲ意味スルコトモアリマセウ、例ヘバ地方債ハ御承知ノ通り現在高イ金利デ、七億六千萬圓ト云フ地方債ガ七朱以上ノ利廻リデ借リテ居ルモノガ三分ノ一モアルト云フ現況デアアル、此地方債ヲ六朱五厘トカ六朱ノ利廻リデヤッテ行クコトガ假ニ出來マシタナラバ、ソレガ社會政策ヲ意味スルコトハアリマセウ、ケレドモ郵便年金ハ其社會政策ト云フコトニ因ハレテ、其運用ハ必ズ限ラレタル社會政策ニ投資シナケレバナラヌト云フノデナク、主トシテ公債ニ投資スル、此資金運用ノ點ニ於テ、簡易保險ト年金トハ其所ニ使命ノ出發點ニ隔リガアル、程度ヲ論ジタナラバ一方ハ主トシテ社會政策、一方ハ必シモ社會政策ヲ意味セズ、斯様ニ見ルコトガ當然デアアル、斯ウ云フヤウニ例ヲ舉ゲテ具體的ニ御答申上

ゲタノデアリマス、ドウゾ速記録ヲ御覽下サイマシテ、決シテチグハグハ無イ積リデアリマスカラ、左様御了承ヲ願ヒマス

○安達國務大臣 昨日ハ貴族院ノ豫算總會ニ出タ爲ニ、逕信省ノ法案トシテ重要ナル第一回ノ委員會ニ出席スルコトヲ得ナカッタノヲ甚ダ遺憾ト致シマシテ、各位ニ對シテ一言御斷リシテ置キマス、只今平野君ノ御問ニ對シテ川崎君ノ御答ヲ承リマシタガ、昨日川崎君ノ答辯ト頼母木君ノ答辯ガ多少違ッテ居ッタヤウデアアル、併シ敢テ全然矛盾デモナカッタト云フ御話デアアルガ、今川崎參與官ノ答辯ヲ聽イテ見ルト、片言ダケレドモ甚シキ違ハナカッタヤウニ想像シマス、是ハ各々ノ見様ニ依テ山ノ形デモ右ノ方カラ見ルト、左ノ方カラ見ルト、又立論ノ仕方ニ依テ表カラ立論スルノト、裏カラ立論スルト云フヤウナコトデ見様ニ依テ違フ、社會政策ト云フ言葉ハ近代ノ流行語デ、何ニ彼ニモ社會政策ト云フ言葉ガ非常ニ用キラレル、宜イコトデス、併ナガラ定義ヲ言ウタラドウ云フコトカト云フト、抽象的ノ言葉ダカラ解釋ガ頗ル明白ニ言現ハスコトガ出來ヌガ、此事業モ社會政策ニ違ヒハナイト思フ、唯強制的ニ社會ノ最下層ノ者バカリヲドウカスルノガ社會政策ト云フバカリデハナイ、社會ノ秩序ヲ維持シテ行ク、防貧救貧ト云フコトヲ目的トシテ行クナラバ

中産階級ヲ之ニ包含サモル、二千四百圓ノ年金ヲ買フ力ガアレバ中産階級ニ近イ者ダラウト思フ、ソレデソレヲ含ンデ、サウシテ下層ノ勞働者モ矢張最低限十二圓マデ買ハレルト云フコトダカラ、是ガ社會政策ノ中ニ包含サレルト云フコトヲ高調シテ居ル、唯資金ノ運用ハ今川崎君ガ述べタヤウニ趣ヲ異ニシテ居ル、其邊ノ違ヒガアル爲ニ、社會政策デアルトカナイトカ言ハレルガ、簡易保險ト同ジヤウニシナケレバ社會政策デナイト云フノハ無理デアリマス、簡易保險トハ性質モ種類モ違フ、其所ニ年金事業ノ妙意ガアルダラウト思フ、同ジ社會政策トシテ色ミナモノガ行ハレルノガ國家ノ爲ニ喜ブベキ事ダト思フ、確ニ社會政策ノ一ツニ相違ナイ、富士山ヲ右カラ眺メタ論ト左カラ眺メタノトハ、論ノ立方ガ違フ爲ニ違フノダケレドモ、ソレヲ綜合スルト全ク一ニ歸シハセヌカト考ヘル、兩君ノ御説明ガ強チ間違ッテモ居ラヌ、貴方モ矛盾シテ居ラヌケレドモガト云フ御話デアリマシタ、サウ御聽取ヲ願ッテ置キマス

障リヲ生ズルコトガナカラウカト云フノ自分ノ老婆心ノ餘リ御間シタノデスガ、問題ガ明快ニナリマシタ、満足致シマス

○安達國務大臣 此際申上ゲテ置キマスガ、戸田君ノ御間ノヤウナコトモアルシ、昨日政府委員ノ方カラ説明ガアリマシタカ知レマセヌガ、大體郵便年金ト云フ言葉ガ新シイ、ソレデ一寸誰デモドンナ事ヲスルモノカ多少研究シテ居ラヌ人ハ頭ニ這入ラヌ、戸田サンノ御間ノヤウナコトハ御尤モデアリマス、是ハ保險局ノ方デモ局長其他ガ居ラレマスガ、餘程研究シマシテ、サウシテ是ハ保險ノ字ヲ附ケヤウカドウカト云フコトヲ考ヘタ、併シ保險ノ字ヲ附ケルト普通ノ保險ト同一視サレルトイケナイト云フコトデ、保險ノ字ヲ取除イテ郵便年金トシタ、ソレカラ先キニ參與官ノ説明シタ通り歐米ニ行ハレテ居ル年金ニ較ベルト、色ミナ種類ガアルケレドモ、ソレモ第一回カラソナ繁雜ナ事ヲスルト迷ヒヲ生ズル、極ク單純ニシテ二種類ニシテ、其中ニ何カ方法ヲ考ヘルト云フコトデ、保險ハ二種類デアリマス、頗ル單純デアアル、差上ゲテアル事業要項ノ二ガソレデアリマス、年金ノ種類、ソレカラ元金ノ留保又ハ拋棄、拂込ノ金額、年齢ノ區別ガサレテ居ル、保險ハ單純ニ二種類、他ノモノヲヤラウカト考ヘタガ、マダ國民一般ノ頭ニ這入ラヌカラ、先ヅ年金トハ斯

ウ云フモノダト云フコトヲ知ラシテ、徐々ニ他ノ年金ヲ作ルガ宜カラウト思ヒマス、ソレデ昨日説明モアリマシタラウガ、非常ニ大丈夫ナモノデアリマスカラ、是ガ法律案トナッタ曉ニハ全國ニ宣傳シテ、此郵便年金ガ知レ渡ッタナラバ、餘程歡迎サレルダラウト思ッテ居リマス

○佐藤委員 實ハマダ參考書類ヲ十分ニ通讀シテ居リマセヌノデ、全部ニ互ニ質問ノ出來マセヌコトハ遺憾デアリマスガ、只今大臣ノ御説明ニ依リマシテ、郵便年金ト云フ言葉ノ選擇ヲサレタル一面ノ理由ハ正ニ了承致シマシタ、併ナガラ本法ノ内容ハ確ニ一ノ保險デアリマシテ、即チ養老保險、防貧保險乃至生存保險、簡單ニ申シマスレバ生存保險ト云フベキモノト思ヒマス、ソコデ立法ノ趣旨ハ洵ニ結構ト思ヒマス、唯茲ニ是非明瞭ニシテ置キタイ點ガ一二アリマス、其一ハ從來既ニ此種ノ保險ヲシテ居リマス民間ノ保險會社ガアルヤウデアリマス、ソコデ此既設會社ハ是迄ノ保險ヲ如何ニスルカ、先達テ大臣ノ御説明ニ依ルト、マダ此種ノ保險思想ハ十分民間ニ普及シテ居ナイカラ、既設會社ノ成績ガ舉ッテ居ナイト云フコトデアリマス、併ナガラ是ハ當然早晚民間一般ニ普及シテ、此種ノ保險ガ大ニ發達スベキモノト私ハ考ヘテ居リマス、ソコデ將來絕對ニ此民營ヲ禁止スル方針ナリヤ否ヤ、又既設會社

ノ同種ノ保險經營ハ如何ニ扱ハレル御積リカト云フ點ヲ明瞭ニシテ置キタイト思ヒマス、第二點ハ此年金ヲ二千四百圓ト限ッテアルヤウデアリマスガ、其數字ノ根據如何ト云フ點デアリマス、第三點ハ差押金額ハ「年額二百五十圓ヲ超ユル金額ニ付テハ此ノ限リニ在ラスト云フコトニナッテ居リマス、年額二百五十圓ハ月額二十圓ニシカナラヌノデアリマス、ソコデ單ニ月額二十圓デ本法ノ趣旨ガ十分ニ徹底スルヤ否ヤ、若シ之ヲ法律的ニ十分ニ保護シヤウト云フ趣旨デアリマスレバ、モウ少シ高額ニシテ置ク必要ハナカッタカ、即チ月額二十圓マデヲ法律ヲ以テ徹底的ニ保護シヤウト云フ趣旨如何、並ニ其金額算出ノ基礎如何ト云フ點デアリマス、更ニ第四點ハ此施行期日ハ勅令ヲ以テ定メルト云フコトニシテアリマスガ、大體ニ於テ本法ガ若シ兩院ヲ通過致シマシタナラバ、何時頃カラ施行ナサルベキ御見込デアリマスカ、此四點ニ付テ簡單ニ御説明ヲ願ヒタイ

○安達國務大臣 御尤ナ御尋デアリマスガ、第一ノ御間ハ民間保險トノ關係デスガ、ソレハ大變攻究致シマシタ、有體ニ申上ゲマスガ、絕對ニ簡易保險同様に獨占シタラ宜イ、斯ウ云フ論モアル、ソレカラ民間デモ其論ヲスル人ガ大分アリマシタ、現ニ朝日新聞ノ社説デ獨占論ヲ書イテ居ッタ、併シ既ニ微々タルモノデアリマスガ、御話ノ通り内

○平野委員 只今ノ川崎參與官竝ニ逕信大臣ノ御答辯ニ依テ明瞭ニナリマシタ、是ハ各委員モ蓋シ満足シタト思ヒマス、唯昨日ノ御答辯ヲ第三者ガ聽イタ場合ニ、大臣ノ仰セノヤウナ、御股場カラ見タ富士ト静岡カラ見タ富士ガ違フヤウデアリマシテ、或ハ審議上ノ差

地ノ會社デ日本教育生命保險會社ガ
ヤッテ居リマス、ソレカラ外國ノ會社デ
加奈陀ニ「サンライフ」ト云フ會社ガア
リマス、サウ云フ微々タルモノデアル
ケレドモ、會社ガヤッテ居ル以上、獨占
ト云フコトハ見合セルコトニ致シタ次
第デアリマス、併シ貴方ハ將來民間デ
此事業ガ發達スルダラウト云フ御意見
ノヤウデアリマスガ、遞信省デ見マス
所デハ遠キ將來ハ分リマセヌガ、現在ノ
日本ノ財界ノ狀態デハ中ニ是ハ民業デ
ハ出來ナイコトデアラウト思ヒマス、
是ガ民業デ算盤ガ採レルナラバ既ニ發
達シテ居ラナケレバナラス、今日マデ
發達シナイノハ採算ト引合ハナイカラ
デアリマス、ソレハ今ノ日本教育生命
保險デ僅カ二件シカアリマセヌ、ソレ
カラ外國ノガ十五件シカナイヤウナ譯
デアリマスカラ、殆ド無イト申シテ宜
カラウト云フ狀態デアリマス、ソレデ
之ヲ政府ガ全ク非營利的ニ、少シモ儲
ケヤウト云フ考ガナクシテヤルト云フ
コトト、ソレカラ郵便局ト云フ他ノ會
社ナドデ到底出來ナイモノヲ全國ニ八
千六百持ッテ居ルノデ、此郵便局ヲ利用
シテ、其窓口ニ於テ取扱フト云フコト
ガ、此年金保險ヲ政府ガヤッテ、サウシテ
旨ク實行ガ出來ルト云フ考ヲ起ス基礎
ニナッテ居ルノデアリマス、ソレデ將來
民業デヤリタイト云フ人ガアッタナラ
バ、是ハ獨占ニナッテ居リマセヌカラ、
或ル場合ニハ官業ト並ビ立ッテ行クコ

トガ絕對ニ無イトハ言ハレマセヌガ、
併シ現在デハサウ云フ事ヲスル會社ハ
無イト考ヘマス、ソレカラ此事ヲ計畫
スルニ付キマシテハ、各保險會社保險
協會ニ對シテ、其幹部ノ人達ニモ打明
ケテ、斯ウ云フ計畫ヲスルガ、保險會社
ニハドウ云フ影響ヲ及ボスカ、其邊ノ
コトモ參考ニ聞キタイト云フコトデ打
合セマシタガ、保險協會ノ方デハ協議
ノ結果、之ニ對シテハ少シモ異議ガ無
イト云フ返答ヲ得テ居リマスノデ、民
間トモ其折合ハ能ク附ケテ居ル積リデ
アリマス、ソレカラ第二ノ最高額ヲ如
何ニシテ二千四百圓ニシタカト云フ御
質問デアリマスルガ、是ハ種々研究致
シマシテ、モ少シ少シクシタイト云フ議
論ト、モ少シ多クシタイト云フ議論ト
アリマシタガ、日本人ト云フモノハ、ド
ウシテモ月ニ幾ラ收入ガアルカト云フ
コトガ日本人ノ頭ニ入ッテ居ル、ソレデ
一ヶ月二百圓ノ收入ガアルト云フ程度
ナラバ宜カラウト云フ譯デ定メタノデ
アリマスガ、是ハ全ク程度ノ問題デ各
意見ハアリマシタガ、種々研究ノ結果
二千四百圓ガ宜カラウト云フコトカラ
斯様ナ數字ヲ現シタノデアリマス、ソ
レカラ第三ノ差押金額ノ二百五十圓
ハ、何故ニ斯様ニシタカト云フ御質問
ニ付キマシテハ、御承知ノ通り民事訴
訟法ニ於テハ三百圓ト云フコトニナッ
テ居ッテ、是モアレト同様ニシタイト云
フ意見モアリマシタガ、又一方ニ於テ

ハ、今日ノ狀態デハ斯様ニ差押ナドノ
出來ナイコトヲシテ置イテハ困ルカ
ラ、マルデ廢メテ貰ヒタイト云フ意見
モ關係各省ノ間ニハアッタノデアリマ
スケレドモ、研究ノ結果ハ矢張最小限
度二百五十圓ヲ三月ニ割レバ二十圓強
デアルガ、サウ云フ極端ナル最小限度
ノ金高ダケヲ玆ニ差押ヲ禁スルト云フ
コトニシテ置カウト云フコトニ話合ガ
付キマシタノデアリマスガ、全ク是ハ
程度問題デアリマシテ、確タル何カ動
カスベカラザル基礎ノ上ニ立ッテ考デ
ハナクシテ、此位ガ宜クハナカラウカ
ト云フ考カラ定メタ數字デアリマス、
ソレカラ第四ノ御質問ノ何時カラ之ヲ
實行スルカト云フコトニ付テハ、是ガ
兩院ヲ通過シテ法律トナッタナラバ、十
月一日カラ施行シタイ、何トナレバ丁
度簡易保險モ創立以來既ニ滿十年ニナ
リマシテ、サウシテ養老ニ加入シタ者
ハ初テ此ニ養老保險ガ取レルノデアリ
マスカラ、其養老ノ保險ノ金ヲ直グ此
方ノ年金ヲ買フコトニスルコトモ出來
ヤウカト考ヘマスノデ、十月一日カラ
施行スルト云フ考ヲ持ッテ居ル次第デ
アリマス

○平野委員 只今ノ問題ニ關聯シテ御
伺シタイト思ヒマス、差押ノ二百五十
圓云々ノコトデアリマスガ、只今大臣
ノ御答辯ニ依リマス、サシテ二百五十
圓トシタコトニハ確タル論據ハ無イヤ
ウニ思ハレルノデアリマスガ、年額二百
五十圓、月額二十圓デアッテ、苟モ住居ヲ
持ッテ居ル以上ハ三疊デモ四疊デモ、自
分ガ疊ノ上ニ居ルト云フ以上ハ、淺草
ノ觀音様ノ椽ノ下ニデモ居ラザル限リ
ハ、月額二十圓ト云フ金デドウシテモ
生計ヲ營ンデ行クコトハ出來マイト思
ヒマス、民事訴訟法デハ三百圓ト云フ
コトニナッテ居リマシテ、之ヲ先程ノ大
臣ノ御話ノヤウニ、社會政策ノ一端ト
シテ御作リニナッタト云フナラバ、二百
五十圓ハ少シ少額デハナイカト云フ疑
念ヲ有シテ居ルノデアリマシテ、此二
百五十圓ト云フコトハ論據如何ニ拘ラ
ズ、飽迄モ之ヲ固執セラルルト云フ御
考デアリマスルカ

○今井田政府委員 二百五十圓ト定メ
マシタノハ只今大臣カラ御説明モアリマ
シタ通り、最小限度ノ生活費トシテ、月
額二十圓ノ程度ハ如何ニ安價ナ所ニ居
リマシテモ必要デアルト云フコトカラ
決定シタノデアリマス、年金ニシマシ
テハ最小限度ガ百二十圓デ、ソレト權
衡ヲ取ッタノデアリマス、只今民事訴訟
法ノ關係ニ付テ御話ニナリマシタガ、
民事訴訟法ニ於テ差押ヘテ居リマスノ
ハ、主トシテ勤務所得ニ對シテ差押ヘ
テ居ルノデアリマス、所ガ年金ノ二百
五十圓ハ勤務所得ト申シマスヨリハ、
寧ロ資本カラ出ル所得ニナッテ居リマ
スノデ、二百五十圓ノ年金ヲ受ケマス
爲ニハ、最モ澤山ノ年金ヲ拂込ミマス
者ハ約三千七百圓カラ三千九百圓餘ノ

掛金ヲシナケレバナラヌノデ、斯ウ云フヤウナ拂込資本カラ出ルモノデアリマスカラ、民事訴訟法ニ定メタルモノトハ其所得ノ性質ヲ異ニシテ居リマスノデ、年金モ三千餘圓ノ金額ヲ拂込ムト云フ關係カラ、債務者ヲ或ル程度ニ於テ保護スルト云フヤウナ必要モアリマスノデ、サウ云フ事情デアリマスカラ、必シモ民事訴訟法ニ定メタル標準ニ依ルト云フコトハ宜シクナイト云フ議論モアリマシテ、殊ニ民事訴訟法ハ明治二十年代ニ出來タモノデアリマシテ、其當時ノ三百圓ハ、今日ノ三百圓ト比較スルト其額ニ於テ實際上ハ非常ナル相違ガアリマス、其當時ノ三百圓ハ物價指數ノ關係カラ見レバ、今日ノ千五百圓カ二千圓ノ程度ニナルト考ヘマ

スガ、假ニ二千圓ト假定致シマシテモ、最モ多ク拂込ミマス者ガ三千九百圓、平均シマシテモ約二千圓以上ヲ拂込マナケレバ、二百五十圓ハ得ラレヌコトニナツテ居リマスルノデ、サウ云フ事情カラシテ二百五十圓ガ適當デナイカト云フコトニ至ツタノデアリマス、ソレト前述ノ如キ最小限度ノ生活ヲ保證スルト云フコトノ二點カラシテ斯様ニ定メタノデアリマス

記載サレル唯一ノ理由デモアルマイト思ヒマスケレドモ、差押額ヲ最小限度月額二十圓トシタト云フ其論據ハ、マダ政府委員カラ確タル御答辯ハナイヤウデアリマスガ、是ハ結局意見ノ相違ニナリマセウガ、政府ハ之ヲ絶對的ノモノトシテ御支持ナサルカドウカ、之ヲ一ツ責任アル方カラ承リタイト思ヒマス

居ラレマスカ、ソレヲ此機會ニ於テ私ハ伺ツテ置キタイ

○川崎政府委員 是ハ大臣カラ御説明ガアリマシタ如ク、此二百五十圓ト云フノモ程度ノ問題デ見方デアアル、政府ハ二百五十圓ヲ以テ大體今簡易保險局長カラ説明ヲ致シマシタウニ、此程度ナラバト云フ見方ヲシテ居ルノデア

ル、此程度ナラバト云フコトハ今申上ゲタ點ニ在ルノデ、是ハ其或點ニ於テハ債權者保護ノ意味カラ見テ居ルノデアリマシテ、即時拂ノ一時年金ト云フト、二百五十圓デモ元金ニ致シマスト三千九百八十九圓七十七錢、先ヅ四千圓ノ金ヲ以テ即時拂ノ二百五十圓ノ年金ヲ買フノデス、其場合ヲ想像スルト、矢張年金ハ二百五十圓デアリマスケレドモ、元金デ云ヒマスト四千圓ニナル、四千圓ノ金ヲ以テ年金ヲ買ヘバ、其年金ハ絶對ニ訴訟サレルコトガ出來

ナイ、斯ウ云フコトニナル、此所ガ即チ見方ノ相違デアリマスガ、此所ニ根據ヲ置イテ、單ニ二百五十圓ト云フモノノミヲ見ズニ、先ヅ元金ヲ見テ其弊害ノ程度ヲ此位ノ所ニ置イタラドウカト云フノガ政府ノ見テ居ル點デアリマス、其位ナ事デドウゾ御諒承ヲ願ヒタウゴザイマス

○中原委員 只今政府委員カラノ御答辯若クハ御説明ニ依リマシテ、此種ノ保險制度ハ民間ニ於テ其發達ガ極メテ微々タルモノデアリ、又民間デ斯ノ如キ事ヲ經營スルコトハ所謂收支償ハナイ、デアアルカラシテ、將來モ餘リ發達シナイモノダラウト云フヤウナ御意見モアッタヤウデアリマス、吾々ノ考デハ今同——先般簡易生命保險ニ對スル増額ト云フコトモ決定ヲサレ、又此年金法案モ御提出ニナリ、假ニ是ガ實行サルルト云フコトニナレバ、所謂一般民間デ從來行ツテ居ル所ノ保險ト云フモノガ、段々所謂官營デヤルト云フ傾向ヲ現ハスヤウニ思フノデ、此保險ト云フモノヲ所謂官營ニスルト云フコトハ隨分問題ニナツテ居ルコトデアリマスルシ、各方面ニ於キマシテモ其議論ガ隨分出テ居ルノデアリマスガ、政府ハ此保險ト云フモノヲ將來官營ニスルト云フヤウナコトニ向ツテハ、現在ニ於テ如何ナル御考ヲ有シテ居ラレマスカ、又今回ノ此年金法若クハ先般決セラレマシタ簡易生命保險、アレ等ニ依テ或ハ將來總テノ保險ヲ官營ニスルト云フコトノ一前提デアアルノデアアルカ、全クソレトハ別ノ考ヲ有シテ居ラレルノデアアルカ、或ハ今申シマシタガ如ク保險ノ官營ニ付テハドウ云フ御考ヲ有シテ

○平野委員 只今政府ノ御答辯ヲ伺ヒマシテ了解致シマシタガ、政府ハ年金ノ方ノ最低額ヲ二百二十圓ニシタト云フコトデ、百二十圓モ不徹底ナモノデアルト思フ、年金トシテハソレヲ法律ニ

記載サレル唯一ノ理由デモアルマイト思ヒマスケレドモ、差押額ヲ最小限度月額二十圓トシタト云フ其論據ハ、マダ政府委員カラ確タル御答辯ハナイヤウデアリマスガ、是ハ結局意見ノ相違ニナリマセウガ、政府ハ之ヲ絶對的ノモノトシテ御支持ナサルカドウカ、之ヲ一ツ責任アル方カラ承リタイト思ヒマス

○川崎政府委員 昨日モ此問題ハ出タノデアリマスガ、是ハ所管トシマシテハ商工省カラ御答ヲ致スコトガ一番適當ダト考ヘマス、逕信省ニ於テハ簡易保險ト年金トヲヤリマスコトニナツタノデアリマスガ、簡易保險ノ方ハ中原君モ御承知ノ通り、民間トノ接觸ヲ避ケテ居リマシテ是ハ殆ドゴザイマセヌ、ソレカラ年金ノ方モ政府ノ獨占事業ト致シマセズシテ、適當ナ條件ヲ備ヘテ來ルモノニ對シテハ、能ク審査ノ上デ詮議セラルルモノモ將來或ハ生ジテ參リマセウト思ヒマス、又現在ニ於テヤツテ居リマスモノハ、是ハ既得權ヲ認メテ之ヲ擴張シテ行クコトニ付テハ、何等政府ニ於テ異議ハナイ譯デアリマス、此問題ト關聯シテ直ニ保險官營ニ這入ルノデヤナイカ、保險官營ノ前提トシテ是ガ生レテ出ルノデハナイカ、前ノ簡易保險ト云ヒ、年金ト云ヒ、段々政府デ事業ヲ經營スルノデアアルカラシテ、應テハ是保險官營ニ踏込ム一步デハナイカト云フヤウニ御考ニナルコトモ御無理ハナイト思ハレマスガ、其事トハ今度ノ計畫ハ全ク關係ガゴザイマセヌ、全ク別個ノ問題ト致シテ、保險官營ト云フコトヲ考ヘテ見ル時ガアルカモ知レマセヌケレドモ、今ハサウ云フコトヲ考ヘテ此提案ヲ致シタモノデハナイノデゴザイマス

○川崎政府委員 昨日モ此問題ハ出タノデアリマスガ、是ハ所管トシマシテハ商工省カラ御答ヲ致スコトガ一番適當ダト考ヘマス、逕信省ニ於テハ簡易保險ト年金トヲヤリマスコトニナツタノデアリマスガ、簡易保險ノ方ハ中原君モ御承知ノ通り、民間トノ接觸ヲ避ケテ居リマシテ是ハ殆ドゴザイマセヌ、ソレカラ年金ノ方モ政府ノ獨占事業ト致シマセズシテ、適當ナ條件ヲ備ヘテ來ルモノニ對シテハ、能ク審査ノ上デ詮議セラルルモノモ將來或ハ生ジテ參リマセウト思ヒマス、又現在ニ於テヤツテ居リマスモノハ、是ハ既得權ヲ認メテ之ヲ擴張シテ行クコトニ付テハ、何等政府ニ於テ異議ハナイ譯デアリマス、此問題ト關聯シテ直ニ保險官營ニ這入ルノデヤナイカ、保險官營ノ前提トシテ是ガ生レテ出ルノデハナイカ、前ノ簡易保險ト云ヒ、年金ト云ヒ、段々政府デ事業ヲ經營スルノデアアルカラシテ、應テハ是保險官營ニ踏込ム一步デハナイカト云フヤウニ御考ニナルコトモ御無理ハナイト思ハレマスガ、其事トハ今度ノ計畫ハ全ク關係ガゴザイマセヌ、全ク別個ノ問題ト致シテ、保險官營ト云フコトヲ考ヘテ見ル時ガアルカモ知レマセヌケレドモ、今ハサウ云フコトヲ考ヘテ此提案ヲ致シタモノデハナイノデゴザイマス

○作問委員長 私カラ此綱領ニ從ッテ
順次三四點バカリ御尋致シタイノデア
リマス、マダ私モ調査研究ハ行届イテ
居リマセヌカラ、質問ハ極メテ幼稚カ
モ知レマセヌ、其點ハ惡カラズ御承知
ヲ願ヒマス、先ヅ名稱ニ付テ「郵便」ト
云フ二字ヲ附セラレタコトデアリマ
ス、郵便ト云フモノハ隔地者間、若クハ
隔地者間ナラズトモ、人ト人トノ間ニ
音信ヲ送ル、或ハ物品ヲ送ル、即チ遞送
ノ意味ヲ含ンデ居ルノデアリマス、是
ハ如何ナル場合ニ於テモ動カスコトガ
出來ナイ字義デアアル、然ルニ遞信省ハ
此頃「郵便」ト云フ字ヲ濫用サレル傾向
ガアリマスノデ、私ハ若シ年金ニサヘ
「郵便」ト云フ字ガ附セラレルナラバ、
保險ノ如キモ郵便保險ト謂ハレテ差支
ナイ所ヲ、保險ハ全ク郵便ノ性質ヲ含
ンデ居ナイカラ故ラニ簡易保險ト云フ
名稱ヲ附セラレタモノト信ズルノデア
リマス、郵便局デ扱フ年金デアアルカラ
郵便ト云フコトデアリマスルナラバ、
保險モ亦簡易保險ヨリモ寧ロ郵便保
險、或ハ郵便簡易保險ト斯ウナルベキ
筈デアリマスルガ、何ダカ「郵便」ト云
フ字ヲ題セラレルガ爲ニ、當分ノ間國
民ガ之ニ慣レテ來ルマデハ、餘程誤解
等ヲ生ズル虞ガアラウト思ヒマス、尙
ホ字義カラ云ッテモ年金ニ郵便ト云フ
字ヲ附スルト云フコトハ全ク當ラヌト
思ヒマス、私共ハ單ニ郵便局ニ於テ取
扱フ年金デアアルカラ郵便ト云フ字ヲ附

セラレタト云フコトニハ承服出來マセ
ヌ、此點ダケハ御斷リ申上ゲテ置クノ
デアリマスガ、此字義ニ付テ「郵便」ト
云フ字ヲ故ラニ附セラレタ理由ハ如何
デアリマスカ、之ヲ御尋シテ置キマス
○今井田政府委員 郵便ト云フ字義ニ
付キマシテハ只今……

〔作問委員長委員長席ヲ退キ戸
田理事代リ着席〕

金ニ致シタノデアリマシテ、英吉利ナ
ドデモ「ボスト」オフィス、ライフ、イン
シユアールランス」郵便局ノ生命保險ト
云フヤウナ言葉ヲ使ッテ居リマスノデ、
必シモ不穩當デハナカラウ、最モ分リ
易カラウト云フノデ取ッタニ過ギマセ
ヌ

質問ノ趣旨ニハ同感デアリマス、色々
ノ政府ノ各省ノ御打合せニ於テ各自皆
適宜ナ見方ヲセラレテ、ソレゾレ異リ
タル法令ヲ定メルニ於テハ、國民ハ適
從スル所ヲ知ラザルヤウニ相成ル、甚
シキ相當ノ理由、否寧ロ必要已ムベカ
ラザル理由ノアルモノハ別デアリマス
ルケレドモ、然ラザル限リハ國家ノ法
律ト云フモノハ國民ニ對シテ大抵一樣
ニ構成セシムベキモノデアラウト思
フ、殊ニ是ガ五十歳ト云フコトニナリ
マス、私ハ五十歳以後ハ所得能力ハ
通例衰退スル、即チ活動能力ガ衰退ス
ルト云フコトヲ此法令ニ於テ見做シマ
スルト、國民元氣ノ退嬰ト云フ上カラ
見テ如何ナモノデアラウカ、是ハ法制
ノ問題ヲ離レテ國家政策ノ上カラ大ニ
御考ヲ願ヒタイ所デアリマシテ、五十
歳ヲ超エレバモウ政府ハ所得能力ノ衰
退スルモノト見ルト云フコトデアリマ
シタナラバ、日本ノ國民ハ活動能力ト
年齡トノ關係ニ於テ大ニ思想上、生活
上、將又直接間接ノ影響ヲ與フベキ重
大ナル問題デハナイカト思フノデアリ
マス、國民ノ元氣ヲ成ベク長ク保存セ
シメ、其活動ヲ期待スルコトハ、政府ト
シテノ國策ノ根柢デナケレバナラヌト
思フ、唯或ル事業ノ便宜ノ爲ニ、無暗ニ
法令ヲ以テ活動能力ノ衰退時期ヲ早メ
ラレルコトハ、或ハ事業ノ方面ニ於テ
更ニ大キナ面白カラザル結果ヲ來シハ
セヌカト案ジラレル、此點ニ付テ政府

ソレデ何故郵便ト云フ字ヲ使ッタカト
云フ御話デアリマスガ、此名稱ニ付キ
マシテハ色々考ヘタノデアリマス、或
ハ簡易年金ト云ヒマスカ、或ハ政府年
金ト云ヒマスルカ、或ハ國民年金ト云
ヒマスルカ、色々考ヘマシタガ、元來
簡易保險ト云フノガアリマスガ、アレ
バ取扱ガ極ク簡便デアルト云フ意味デ
簡易ト云フ字ヲ使ッテ居ルノデ、其簡易
ト云フ字ヲクッ付ケルコトハ、簡易保
險局ガ主トシテ取扱フノナラバ簡易年
金デモ或ハ宜イカモ知レマセヌガ、元
來使ッテ居ル意味ト大分變ッテ來マスカ
ラソレハ取レナイ、國民年金トシマス
レバ稍大袈裟デアリマス、政府年金
「ガバーメント・アンニユイチャー」是
ハ加奈陀ナドデ使ッテ居リマスガ、政府
年金ト云フノモ少シク重シクナルト
云フコトデアリマシテ、其結果先ヅ郵
便局デ扱フ郵便爲替、郵便貯金ト云フ
風ニ色々郵便ト云フ字ヲ冠セタ種類ノ
事業ガアリマスカラシテ、最モ國民ニ
分リ易イダラウト云フ意味カラ郵便年

金ニ致シタノデアリマシテ、英吉利ナ
ドデモ「ボスト」オフィス、ライフ、イン
シユアールランス」郵便局ノ生命保險ト
云フヤウナ言葉ヲ使ッテ居リマスノデ、
必シモ不穩當デハナカラウ、最モ分リ
易カラウト云フノデ取ッタニ過ギマセ
ヌ

○作問委員 此點ハ是レ以上ハ見解ノ
相違デスカラ申上ゲヌトシテ、次ニハ
年金支拂ヲ開始スル年齡デアリマス、
据置終身年金ハ五十歳以後ニシテ支拂
ヲ開始サレル、五十歳ヲ標準トシテ居
ラレル、是ハ茲ニモ書イテアリマス通
リ普通所得能力ノ衰退スル時期ヲ標準
トセラレタト云フコトデアリマス、所
ガ私共ハ今平野君カラモ差押ヲ許サザ
ル金額ニ付テ民事訴訟法トノ關係ヲ述
ベラレテ御尋ニナツタ通り、元來日本國
民ノ活動ノ準則ヲ定メテ居ル民法ニ於
キマシテハ、六十歳ヲ以テ隱居ノ標準
トシテ居ルノデアリマス、普通ノ私法
デアアル所ノ民法ニ於テハ、六十歳マデ
ハ十分活動能力アリ、六十歳ニナツテ始
メテ活動能力ガ衰退スルモノデアルト
見テ居リマス、固ヨリ郵便年金ノ支拂
係ヲ離レテ如何様ニ御定メニナルト隨
意デアアルカモ知レマセヌケレドモ、凡
ソ國家ノ法律ト云フモノハ、著シキ理
由ノナイ限リハ矢張成ベク統一シナケ
レバナラヌ、此點ニ於テ私共モ差押ヲ
許サレザル金額ニ付テ矢張平野君ノ御

更ニ大キナ面白カラザル結果ヲ來シハ
セヌカト案ジラレル、此點ニ付テ政府

ハ如何ナル御考ガアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ、ソレカラ尙ホ即時終身年金ノ方ハ四十歳ヲ以テ支拂時期ノ開始トサレル、是ハ所得能力ノ衰退時期デハナク、特殊ノ事情ニ應ズル爲メノ時期ダト見テ居ラレル、所ガサウナッテ來ルト、此方ハ四十歳デハ寧ロ遅イノデハアルマイカト感ゼラレルノデアリマス、例ヘバ是ハ教育保險ノ性質ニ稍近ヅイテ參リマスケレドモ、寡婦或ハ孤獨ノ者、或ハ更ニ自分ノ遺兒ノ教育資金學資ノ關係、是等ノモノハ國民ガ特ニ其必要ヲ痛感シテ居ル、所ガ民間ノ保險會社デ教育保險若クハ其他ノ名稱ヲ以テ此事業ヲ營ンデ居ル者ガ現ニアリマスケレドモ、ソレハ成績ハ餘リ宜シクナク、國民ヲシテ信賴セシムルニハ足ラヌ、政府ガ代ッテ其必要ヲモ國民ノ信賴、安心ノ爲ニ充サシテヤラウト云フ御趣意デアリマスレバ、此特殊ノ事情ニ依ル支拂時期ハ今少シク早メラレテ、寧ロ其方ノ事情ニモ應ジラレルノガ宜クハナイカト思フノデアリマシマス、此點ニ付テモ政府ノ意見ハ如何デアラウカト云フコト御伺シタイノデアリマス

ノ異ツタモノガ出來ルデナイカ、又五十歳デ開始スルト云フコトハ、却テ國民ヲシテ生産能力減退ノ或ル意味ニ於ケル獎勵トモナリハセヌカト云フ御心配ノ御言葉デアッタヤウデアリマス、誠モ御尤ト伺ツタノデアリマスガ、五十歳開始ノ据置終身年金ト云フノハ、這入ルベキ種類ノ人ハ、大抵一時年金ヲ買フコトガ出來ナイ人ガ多イ、ソレデ工場ニ雇ハレル人、或ハ又或ル勤務ニ従事スル人、官公吏ノ雇入デモ、五十歳ヲ過ギレバ大抵雇入ヲ爲サナイ、又勤績シテ居レバ、職工デモ五十歳以上ハ雇ッテ居リマスケレドモ、大抵五十歳ニ限ッテ生産能力ノ減耗時期ニ入ッテ居ルコトハ、各種ノ諸制度ガサウ云フコトニナッテ居ッテ是ハ必ズシモ民法ノ隱居ト云フコトト同一ニ視ル譯ニハ參ラヌト思ヒマス、殊ニ恩給ハ假ニ二十歳ニシテ判任官トナッテ十五年經ッテ三十五ナレバモウ罷メテモ此年金ニ相當スベキ恩給ト云フモノガ認メラレテ居ルノデアリマス、又保險ノ方ノ關係カラ申シマスト、保險ハ養老保險ハ大抵五十歳開始ノモノガ多イ、今表ヲ持合セマセヌガ最モ五十歳ガ多イ、又短カイモノニ至ッテハ十年養老ト云フモノモアリマス、十年開始ノ養老ノ如キハ、随分若クテ養老金ヲ受取ルコトニナルノデアリマス、簡易保險ニ於テモ養老ヲ許シテ居ルノデアリマシテ、養老ト云フ言葉ガ甚ダ不穩當デ、三十五歳デ養老

保險ヲ受ケテ居ルノハ面白クナイデナイカト云フ議論ガ起ルカ知レマセヌガ、サウ云フコトモ起リ得ル、民法ノ規定ハ全ク戸主ガ隱居ヲスル場合デアッテ、此年金ト全ク同一ニ視ル譯ニ參ラヌト思ヒマス、是ハ先程申上ゲマシタ通り薄資者階級、極メテ貧困ナ生活ヲスル人、筋肉勞働ニ従事スル人ハ、五十歳ヲ過ギレバ明ニ生産能力ノ減耗時期ニ入ッテ來ル、是ハ已ムヲ得ナイ、ソレデアルカラソレヲ保障シテヤル、サウ云フ人ニ六十歳デナケレバ支拂ノ開始ガ出來ヌト云フコトニナリマス、是非非常ナ缺陷ニナリハセヌカ、此年金制度ヲ設ケテ趣意ニ副ハナイデハナイカ、而モ一時年金ヲ買フコトガ出來ル人ナラバ宜イガ、一時年金ヲ買フコトガ出來ナイデ、二十歳カラボツ／＼掛金シテ、ヤッテ五十ニナッテ取ル、斯ウ云フ制度ヲ設ケテヤルト云フコトガ、全ク薄資階級ノ要求ニ應ジテ、極メテ適切ナ年齡デナイカト見テ居ルノデアリマス、第二ノ御尋ノ四十歳ト云フコトニ付キマシテハ作問君ノ御説ノヤウニ、是ハ三十歳開始シタラ宜イデナイカト云フ議論モ、此法案ヲ作ル時分ニアッタノデアリマス、是ハ相當議論シタノデアリマスガ、先ヅ大體四十歳位カラ開始スルコトニシタラ宜イ、三十歳ハ餘リニ年齡ガ早過ギル、若シサウ云フコトニ應ズルナラバ、別ナ制度デ定期年金ノ制度デモ作ッタナラバ、又年ノ

若イ人モ應ズルコトニシ、又定期年金ノ制度ニ伴ヒマシテ若イ時分デモ傷病者トナッテ生産能力ノ減耗シタ人ハ、傷病保險トカ、或ハ傷病年金ト云フヤウナ制度ガ出來ル時ニハサウ云フ缺陷ヲ補フコトガ出來ヤウ、先ヅ四十歳ニスレバ、先ヅ不時ノ出來事ニ依テ夫ニ死別レタト云フヤウナ人ニ對シテ此制度ヲ設ケタナラバ、一時年金ノ制度トシテ適切デハナイカ、金ヲ銀行ニ預ケルニシテモ或ハ元金ヲ失フ危險ガアル、郵便局ニ預ケレバ一時年金ヲ買フヨリモ金利ガ安イ、又引出シ易イト云フヤウナ點ニ於テ、ドウモ一時年金トシテハ大體ニ於テ四十歳位ノ所ガ宜イ年齡デナイカ、若シソレヨリモ若イ要求ガアレバ、今申上ゲタ通り定期年金ノ制度、傷病年金ノ制度デ此補ヒヲ付ケテ行クコトガ適當デアアル、斯様ニ見ルノデアリマス

○作問委員 特殊ノ事情ニ因ル場合ノ支拂開始ノ年齡ニ付キマシテハ、是ハ見方ニ依テ違フノデアリマセウカラ、是レ以上申上ゲマセヌ、唯所得能力ノ衰退時期ヲ標準トシテノ支拂開始、即チ据置終身年金、此場合ヲ五十歳以後トセラレルコトハ、只今川崎政府委員ノ御説明ヲ承リマシテモマダ少シク得心ノ行キ兼ねマスノハ、茲ニ所謂所得能力ト云フコトハ申スマデモナク人間ノ活動ヲ經濟的收入ノ方面カラ見タル能力ニ相違ナイ、矢張活動能力ノ一ツ

ノ現ハレト見テ差支ナイ、然ルニ此處ニ御出席ノ頼母木政府委員モ恐ラク五十歳以上デアラレル、川崎政府委員モ五十歳ニ近イ方デアアル、私モ五十歳ニ近イノデアリマスガ、私ノ如キハ政治社會デ云ヘバマダ赤ン坊デアリマス、頼母木君、川崎君ノ如キモ是カラ多々益辦セラレル前途有爲ノ方ミデ、五十歳以上ニ於テ其活動力ガ當分ハ衰退スルドコロカ、寧ロ向上シテ參ルニ相違ナイト思ヒマス、是ハ全ク國家ノ大局カラ見テ、國民元氣ノ消長ニ關スル問題デアラウト思ヒマス、今迄ハ先ヅ六十

一種ノ沒收デアリマスガ、サウスルト掛金ヲ拂込當時ニ於テ非常ニ其待遇ニ特別ノ差異ガナクテハナラヌ筈デアリマス、其差異ガ如何様ニ附ケラレテアルノデアアルカト云フコトヲ、是ハ教ヘテ戴キタイノデアリマス

出來ル、其元金ヲ受取ラナイデモ宜イト云フ契約ヲスレバ掛金ガ安イノデアリマス、茲ニ一人ノ人ガアッテ親戚モ何モ無い、全ク自分孤立デアアル、自分が生存セシガ爲ニノミ年金ハ要ルケレドモ、自分が死ネバモウ何モ要ラナイト云フヤウナ人ガ假ニアルトスレバ、其人ハ元金償還ノ方ニ入ラズニ元金拋棄ノ方ヘ入ッテ、掛金ノ安イ方ヘ入ッテ、支拂開始前ニ死亡シタ場合ハ、丁度火災保險ニ入ッテ保證ヲ受取ッテ掛金ハ損ニナッタト同ジヤウナ意味デ掛ケ流ス、共代リニ支拂開始時期ニ入レバ自分ノ生キテ居ル間金ヲ貰フ、斯ウ云フコトニナリマスノデ、元金償還ノ分ハ何時デモ先程申上ゲタ通り拂込シタ元金ダケハ返ッテ來ル、其代リニハ支拂開始ヲ致シマス一定ノ期間——十年ナラ十年間假ニ拂ッタトスル、サウスルト元金ニ對照致シマシテ、拂込シタ掛金ト對照致シマシテ、十年後ニ死亡シタ其殘額ダケシカ受取レナイ、元金ノ殘額シカ受取レナイト云フコトニナルノデアリマシテ、支拂開始前ニ死亡致シマス、元金留保ノモノハ非常ニ利益ニナルケレドモ、支拂開始後ハ年々經ルニ從テ元金償還ノモノハ大シタ利益ガナイ、ズット永クナレバモウ元金ヲ喰ッテシマヒマスカラ、何モ利益ニナラナカッタト云フコトニナルノデアリマス、要スルニ非常ナ長生ヲスル確信ヲ持ッテ居ル人ガアルトスレバ、其人ハ元金償還

ニ入ラズニ、掛金ノ安イ元金拋棄ノ方ヘ入ッテ、死スルマデ年金ヲ受ケル、斯ウ云フ利益ガアル、選擇權ノ利益ハ何方ニ有利デアアルカト云ヘバ、要スルニ生存スルコトガ條件デアリマスカラ、生存スル者ガ非常ナ利益ヲ受ケルノデアッテ、元金拋棄ノ場合ト雖モ、長生スレバ長生スル程元金償還ト同ジ利益ヲ均霑スル場合ガアル、長生スレバ掛金ガ少クテ同ジ利益ヲ均霑スル場合ガ生ジテ來ルノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

是ダケヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ元金ノ留保又ハ拋棄、是ハマダ研究シテ居リマセヌカラ得心ガ行キマセヌガ、元金留保ノ契約ヲシタ場合ニハ拂込掛金ヲ返還セラレル、即チ加入者ノ指定シタル者ニ拂込掛金ノ元金全部ヲ返還セラレルト云フコトデアリマセウ、此方ハ能ク分ッテ居リマスガ、元金拋棄——返還セザル方ノ契約、是ハ年金ダケハ其時々貰ヒ受ケテ、年金受取人ガ死亡シタリ契約ヲ解除シタ場合ハ、元金ハソレナリニナッテ貰ヘナクナル、

掛金ヲ拂込當時ニ於テ非常ニ其待遇ニ特別ノ差異ガナクテハナラヌ筈デアリマス、其差異ガ如何様ニ附ケラレテアルノデアアルカト云フコトヲ、是ハ教ヘテ戴キタイノデアリマス

出來ル、其元金ヲ受取ラナイデモ宜イト云フ契約ヲスレバ掛金ガ安イノデアリマス、茲ニ一人ノ人ガアッテ親戚モ何モ無い、全ク自分孤立デアアル、自分が生存セシガ爲ニノミ年金ハ要ルケレドモ、自分が死ネバモウ何モ要ラナイト云フヤウナ人ガ假ニアルトスレバ、其人ハ元金償還ノ方ニ入ラズニ元金拋棄ノ方ヘ入ッテ、掛金ノ安イ方ヘ入ッテ、支拂開始前ニ死亡シタ場合ハ、丁度火災保險ニ入ッテ保證ヲ受取ッテ掛金ハ損ニナッタト同ジヤウナ意味デ掛ケ流ス、共代リニ支拂開始時期ニ入レバ自分ノ生キテ居ル間金ヲ貰フ、斯ウ云フコトニナリマスノデ、元金償還ノ分ハ何時デモ先程申上ゲタ通り拂込シタ元金ダケハ返ッテ來ル、其代リニハ支拂開始ヲ致シマス一定ノ期間——十年ナラ十年間假ニ拂ッタトスル、サウスルト元金ニ對照致シマシテ、拂込シタ掛金ト對照致シマシテ、十年後ニ死亡シタ其殘額ダケシカ受取レナイ、元金ノ殘額シカ受取レナイト云フコトニナルノデアリマシテ、支拂開始前ニ死亡致シマス、元金留保ノモノハ非常ニ利益ニナルケレドモ、支拂開始後ハ年々經ルニ從テ元金償還ノモノハ大シタ利益ガナイ、ズット永クナレバモウ元金ヲ喰ッテシマヒマスカラ、何モ利益ニナラナカッタト云フコトニナルノデアリマス、要スルニ非常ナ長生ヲスル確信ヲ持ッテ居ル人ガアルトスレバ、其人ハ元金償還

ニ入ラズニ、掛金ノ安イ元金拋棄ノ方ヘ入ッテ、死スルマデ年金ヲ受ケル、斯ウ云フ利益ガアル、選擇權ノ利益ハ何方ニ有利デアアルカト云ヘバ、要スルニ生存スルコトガ條件デアリマスカラ、生存スル者ガ非常ナ利益ヲ受ケルノデアッテ、元金拋棄ノ場合ト雖モ、長生スレバ長生スル程元金償還ト同ジ利益ヲ均霑スル場合ガアル、長生スレバ掛金ガ少クテ同ジ利益ヲ均霑スル場合ガ生ジテ來ルノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

得シテ九割ハ返還スルト云フコトニ
ナツテ居リマスカラ、只今申上ゲマシタ
ヤウナ民間事業ノ惡イ例ヲ引用スルヤ
ウナ氣遣ヒハ少シモナイノデアリマ
ス、併ナガラ掛金ノ拂込ヲ延滞シタト
云フコトハ、是ハ金額又契約ノ種類ニ
依テ固ヨリ違ヒマセウケレドモ、凡ソ
ドレ位ノ猶豫ヲ置イテ御遣リニナル
カ、又最後ニドウ云フ手續ヲ取ツテ契約
ヲ解除ナサルト云フ思召デアリマス
カ、其邊ヲ伺ツテ置キタイノデアリマ
ス

○今井田政府委員 掛金ノ延滞ヲ猶豫
スル期間ノ御質問デアッタ思ヒマス、
猶豫期間ハ省令デ定メル續リデアリマ
ス、現ニ簡易保險ハ毎月ノ月掛ニナツ
テ居リマスガ、其簡易保險ノ料金ハ二ケ
月猶豫シテ居リマス、尤モ拂込期間ガ
一ヶ月ニナツテ居リマスカラ、拂込ノ日
カラ、三ヶ月ハ猶豫スルト云フコトニ
ナツテ居リマス、是等ヲ斟酌シマシテ、
其程度ヨリ不利益デナイヤウニ致シタ
イト考ヘテ居リマスガ、省令デ決メル
コトデアリマスガ故ニ、マダ確定致シ
テ居リマセス、又萬一延滞デ解除致シ
マス場合ニハ、契約者ガ非常ニ不利益
ヲ蒙ルヤウニ御話ニナリマシタガ、此
法律デハ決シテ不利益ヲ與ヘナイヤウ
ナ取扱ニナツテ居リマス、萬一延滞シタ
場合ハ民法ニ於テハ直ニ解除シ得ルヤ
ウニナツテ居リマスガ、此法律ハ原則ト
シテ解除シナイ、既ニ拂込ミマシタ料

金デ料済ノ契約ニナリマス、既ニ拂込
ンダ金額ヲ基礎トシテ新シイ年金契約
トスル——法律上カラ云ヘバ變更スル
コトニナリマスガ、少シモ契約者ニ不
利益ヲ與ヘナイコトニシテ居リマス、
萬一サウ云フコトガ出來ナイヤウナ極
ク微細ナ掛金ダケハ、サウ云フ場合ハ
已ムヲ得ズ解除致シマス、併ナガラ解
除シタ場合ハ掛金ノ或モノヲ返ヘス、
斯ウ云フコトニ致シテ居リマスカラ、
契約者ニハ出來ルダケ不利益ヲ與ヘナ
イト云フコトニシテ居リマス

○作間委員 ソレカラ掛金ノ拂込ノ時
期ト、年金ノ支拂時期ニ關シテ御尋ヲ
シタイト思ヒマス、大體斯ウ云フ事業
ノ掛金ト云フモノハ、成ベク毎月或ハ
半月ト云フコトガ行ハレル程進歩シタ
事業ノ遣方トナツテ居ル、現ニ民間ニ於
ケル保險事業ノ如キモ大抵一年一回
拂、若クハ半年一回拂デアリマスガ、此
頃餘程進歩シタ會社ニ於キマシテハ、
面倒ヲ厭ハズ毎月掛込保險ト云フコト
ヲ殊更ニ唱道シテ、ソレヲ以テ其會社
ノ一大特色トシテ居ル位デアリマス、
同ジ金ヲ拂込ムニ致シマシテモ、一時
ニ拂込ム者ハ苦痛デアアル、ソレヲ毎月
毎月ニ多ク割ツテ掛ケサセル程、拂込者
ニハ便宜デアアル、併シ拂込ヲ受ケル方デ
ハ短カク小サク割ラレル程、手數ト費
用ハ掛カルノデアリマスケレドモ、理
想トシテハ、セメテ毎月掛ケ、或ハ是ヨ
リモ短カケレバ短カイ程宜シイト思ッ

テ居ルノデアリマス、又ソレハ進歩シ
タ遣方デアラウト思フ、然ルニ本案ハ
餘程奮發サレタノデアリマセウケレド
モ、矢張一番多イ所デ年四回掛、即チ三
月一回、斯様ニナツテ居ル、此點ハ社會
政策ナルモノノ見方ニ依リマシテハ、
マダ今一步思切ツテ徹底的ニヤリ得ル
餘地ガアリハシナイカト考ヘラレマス
ガ、御考ハ如何デアリマスガ、ソレカラ
今度ハ支拂ノ方デアリマスガ、此支拂
モ矢張年四回拂トナツテ居ルノデアリ
マス、所ガ此點ハ矢張最高額ヲ二千四
百圓ト定メラレマシタノモ、詰リ月額
二百圓ヲ標準トシテ左様ニ決メラレタ
ノデ、總テ計算ノ基準ハ月額ニナツテ居
ル、月ニ幾ラト云フ差押ヲ許サザル金
額ノ計算モ、凡ソソレヲ標準トセラレ
テ居ルノデアアル、殊ニ年金ヲ貰ヒマス
ルヤウナ者ハ其金バカリヲ大抵頼ミニ
スルノデアリマスカラ、毎月貰ヒマセ
スケレバ、月々ノ支拂ニ役立ツコトガ
出來ナイノデアリマス、ト申シマスノ
ハ御差觸リガアルカモ知レマセスガ、
月給ヲ貰ツテ居ラレル方ハ二十一日カ
二日ニ月給ヲ貰ハレマスカラ、晦日マ
デニハ餘リ殘リガ無い、是デ來月ノ月
給日マデ支ヘテ行クト云フコトハ、甚
ダ心細イト感ゼラレルヤウナ人モア
ル、又政府ノ大官——高等官以上ハ年
俸——年額ヲ以テ俸給ノ標準ヲ定メラ
レテ居リマスルガ、實際ノ支拂ハ矢張
毎月ニ割ツテ拂ハレテ居ルノデアアル、要

スルニ我國ノ國民生活ノ經濟上ノ括リ
ハ一ヶ月單位デアアル、毎月本位デア
ル、年四回ト云フト三月ニ一回デア
ル、斯
ウ云フコトデハ、資産ガ他ニ在ッテ融
通
ノ利クモノナラバ別ニ何等不安ハ無い
ノデアリマスケレドモ、ドウセ斯様ナ低
額ノ年金ニ這入ルヤウナ人ハ、主ニ之
ヲ頼ミニシテ、月々ノ暮シ勘定ヲ立テ
テ行カナケレバナラヌノデアリマス、
サウスルト三月ニ一遍貰ウト云フコト
ハ或ル時期ニハ大變手許ガ豊ニナツテ、
自然濫費ノ傾ニナリ、或ル時期ニハ其
反對ニ空ツケツニナツテ、年金モ何所カ
ヘ飛ンデシマッタト云フヤウナコトニ
ナル虞モアルノデアリマス、先刻安達
遞信大臣ハ全國ニハ八千百有餘ノ郵便
局モ備ヘテ居ル、又ソレ等ニハソレゾ
レ従業員モ多數居ルト云フコトデアリ
マスカラ、願クハ之ヲ思切ツテ、費用ト
手數ノ上ニ於キマシテハ多少ノ負擔ヲ
増スコトニハ相違ナイトハ思ヒマスケ
レドモ、掛金モ又支拂モ毎月ヲ以テ標
準ト爲サレ、又希望ニ依テハ、加入者
ノ方カラノ申出ニ依レバ、ソレヲ年四回
デモ、年二回デモ宜シイノデアリマス
カラ、加入者ガ特別ニ希望セザル限り、
毎月ヲ以テ掛金ノ拂ヒヲ受ケレバ、年金
ノ支拂モスル、併シソレ程ニ行渡ルマ
デニハ餘程遠イト云フコトデアリマス
レバ、セメテ加入者ガ特別ニ毎月ノ掛
金ノ方法及毎月ノ年金ノ支拂ノ方法ヲ
希望シテ來タ場合ハ、ソレニ應ジテヤ

ルト云フ思召及御用意ハナイノデアリ
マセウカ、ソレヲ伺ヒマス

○今井田政府委員 只今御話ノ掛金ヲ

毎月拂及年金ヲ毎月拂ニスルト云フコ
トハ、契約者及受取人ニ取ツテハ至極便
利デアラウト考ヘマス、併シ其爲ニハ

取扱費ヲ非常ニ増スコトニナリマス、
掛金ヲ毎月拂ニ致シマスレバ、毎月契
約者ハ郵便局ニ持ッテ行カナケレバナ

ラヌノデアリマス、中々毎月持ッテ行ク
ト云フコトハ兎角忘レ勝デ、遅レ勝ニ

ナッテ來ルノデ勢ヒ集金シナケレバナ
ラヌコトニナルカト考ヘマスガ、集金

ニ致シマスレバ一層其取扱費ヲ増スノ
デアリマシテ、取扱費ガ増シマシタ結

果ハ料金ガ高クナル、斯ウ云フコトニ
ナルノデアリマス、多少契約者ニ不便

ハアルノデゴザイマセウガ、不便ナ爲
ニ料金ガ安ク済ム、斯ウ云フ結果ニナ

ルノデゴザイマスカラ、何方ガ契約者
ノ爲ニ利益デアアルカト云ヘバ、多少不

便デアッテモ安イ料金デ多額ノ金ヲ得
ラルル方ガ、契約者ハ便宜デアラウト

考ヘテ居リマス、特ニ年金ニ於キマシ
テハ、或ハ貯蓄或ハ信託會社ト比較サ

レ易イノデアリマス、隨テ貯金又ハ信
託ヨリモ尙ホ有利ニナルト云フコト

取ッテ大シテ忍ビ得ナイ事デナイト考
ヘマスノデ、特ニ有利ナ方法トシテ此
方法ヲ採ッタノデアリマス

○作間委員 年金ノ支拂ノ方ハ是レ以
上申シマセヌガ、拂込金ノ拂込ノ方ハ

毎月加入者ガ郵便局ノ窓口ニ行ク位ノ
事ハソレ程ノ問題デハナイ、年四回掛

トシマス云フト、折角加入シテ掛金
ヲ拂込マウト思ッテモ、毎月ノ生活費ノ

支出ニ追ハレテシマッテ、遂ニ溜メテ
置イテ、サウシテ半年ナリ年四回ナリ

ニ固メテ持ッテ行クコトガ出來ナクナ
タ、是ハ毎月一度足ヲ運ンデモ、寧ロ收

入ノアツタ時ニ毎月郵便局ニ納メテ行
タ方ガ安心デアアル、其機會ヲ失スレバ

加入者ガ掛金ヲ繼續シタクテモ、逐ニ
繼續ガ實際ニ於テ出來兼ヘルヤウニナ

ルト云フ場合ガ多カラウト思ヒマスカ
ラ、是ハ唯御考慮ノ中ニ置イテ戴ケバ

宜イノデ、是レ以上ノ御尋ハ致シマセ
ヌ、モウ二點、次ハ此年金及拂込掛金ヲ

受取ルベキ權利ノ金ハ譲渡及差押禁止
ニナッテ居リマスカラ、無論是ハ法律上

カラ言ッテモ、擔保即チ質權ヲ設定スル
コトヲ許サザルモノト考ヘマスガ、政

トス、此掛金返還ノ義務、是ハ政府ノ方
ノ義務、年金ノ支拂ノ義務モ同様デア

リマス、政府ノ義務ガ二年ヲ以テ消滅
ヲスル、所謂特別ナル短期時効デアリ

マス、是ガ政府ト國民トノ間ニ於キマ
シテ、政府ノ義務ニ關スル事項ハ總テ

會計法ニ依テ、確力五年ト定メテアル
モノト思ッテ居リマス、ソレカラ商法ノ

一般ノ規定カラ申シマスレバ、矢張五
年ガ原則ニナッテ居ル、政府ハ斯ウ云フ

新シイ事業ノ事柄デモアリマスルシ、
國民ガマダ經驗ノ少イ事業ノ事デアリ

マスルカラ、此時効ノ年限ハ、私ハドチ
ラカト申セバ短イヨリ長イ方ガ宜イト

思フ、一般ノ會計ニ付テモ五年ノ猶豫
ヲ認メテ居リマスノニ、此法案ダケニ

於テ特ニ二年ニ之ヲ短縮セラレタト云
フコトハ、國民ノ爲ニ少々可哀想デハ

アリマセヌカト云フコトヲ考ヘテ居リ
マス、此點ヲ伺ッテ置キマス、ソレカラ

モウ一ツハ、掛金拂込ノ義務ハ一年ヲ
以テ消滅スルモノトス、是ハ恐クハ加

入者ノ方カラ掛金ヲ拂込ム義務デアリ
マス、所ガ一年ヲ以テ消滅スルト云フ

年ニナッテ居リマス、作間君ノ御述ベニ
ナリマシタヤウニ、政府ノ收入支出ニ屬

スルモノハ會計法ノ規定ニ依テ分ケテ
アリマスカラ、五年ノ時効ヲ短縮シ、即

チ五年ノ時効ヲ短縮シテ二年ニシテ整
理ヲスル整理ノ關係カラ二年ニ短縮シ

タコトニナッテ居リマス、此立法ヲ致シ
マシテモ、簡易保險ノ如キ實例ヲ見マ

スト、此時効ノ規定ヲ適用スル場合ニ
ハ、簡易生命保險審査會ノ審査ヲ經テ

居ルノデアリマスガ、是ハ整理上此規
定ヲ置イテ居リマスケレドモ、被保險

者ノ便利ノ爲ニ、此時効ノ適用ヲ成ベ
クシナイコトニ、實例ハサウナッテ居リ

マスガ、規定ハ二年ト云フコトニナッ
テ居リマシテ、是ハ新シイ立法デナクテ、

簡易保險ニ此立法ヲ用キテアル、第二
ノ掛金拂込ノ義務ヲ經過シタルトキハ

時効ニ依テ消滅スルト云フコトハ、是
ハ時効ニ依テ消滅スルト云フト、契約

モ解除ニナリ、契約ヲ繼續スルニ付テ
ハ料濟保險、先程申シマシタ五年ナラ

五年、十年ナラ十年掛金ヲシテ、ソレカ
ラ後モ拂込ヲ繼續スルコトガ出來ナイ

ト云フ場合ニ、年金契約者ハ元金ノ償
還ヲ要求スルコトト——元金償還ヲ要

求スルト言ヘバ、折角今迄拂込ヲシタ
ノニ契約ヲ解除シテシマッテ、元ノ通リ

ニナッテシマッテ、サウシテ元金ノ十分
ノ九位シカ貰ヘナイト云フヤウナ不利

ガアル、其場合ニハ料濟保險ニシテ、拂
込ンダモノヲ以テ其時ノ年金額ニ相當ス

ル拂込掛金ト見テ、保險年金ノ繼續ヲスルコトヲ得ルノデアリマス、是モ矢張整理上カラ來タ關係デ、此第十八條ハ、二年及一年ノ時効ハ、主トシテ非常ナ澤山ナ年金契約ヲ扱フニ當テ整理ノ關係カラ、是ガ三年ニモ五年ニモ延ビテ長ク繼續シテ放ッテ置ケバ、整理上非常ニ不便デアリマスカラ、特別立法ヲ致シタノデアリマスガ、蓋シ今申上ゲタ通り、之ヲ適用スルコトヲ餘程考ヘテ、今迄簡易生命保險審査會ニ於テモ、此適用ハ被保險者ノ不利益ニナルヤウナ適用ハ成ベク致サナイト云フ慣例ニナッテ居リマス

○作間委員 此邊デ御遠慮シテ置キマス

〔戸田委員長代理委員長席ヲ退キ作間委員長復席〕

○佐藤委員 作間君ノ御質問デ大體了承致シタノデアリマスガ、二點ダケモウ一應御伺シテ置キタイノデアリマス、最初私ハ大臣ニ御伺シマス時ニ——此名稱ノ點デアリマス、今政府委員カラ段々御説明ニナリマシタケレドモ、ドウシテモ是ハ本質ガ保險ダト御考ニナリマセヌカ、一步進ンデ年金保險法、郵便年金保險法——茲ニ保險ト云フ文字ヲ加ヘナサル御意思ナキヤ否ヤ、ソレカラ飛ビマシテ貸付ノ點デアリマス、第十五條ニ貸付ノ規定ガアルノデアリマスガ、其貸付ノ所デ「年金受取人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ拂込掛金ノ

範圍内ニ於テ貸付ヲ請求スルコトヲ得」ト云フノガアリマスガ、此貸付ニハ擔保ヲ要スルヤ否ヤ、若シ是ガ擔保ヲ要スルトスレバ、如何ナル擔保ヲ以テ之ニ適用爲サルカト云フ點デアリマス、往々ニシテ御役所相手ニ民間デ色ナ取引ヲ致シマス際ニ、法文ノ上デハ洵ニ立派デアルケレドモ、其運用、適用ニ於テ甚ダ面倒ナ事ガ起リマス爲ニ、隨分立法ノ趣旨ヲ無意義ニ終ラシムルコトモ間々アルノデアリマス、此點ニ付テノ御説明ヲ願ヒタイト思フ

○頼母木政府委員 名稱ノコトニ付キマシテハ、政府ト致シマシテハ此名稱デ差支ナイ、適當ナモノデアルト考ヘテ居リマス、貸付金ノ擔保ニ付テハ別ニムヅカシイ事ハアリマセヌ、唯契約者ノ掛金ガ擔保デアリマス

○平野委員 私モ作間君ノ質問ニ關聯シテ一寸御伺致シテ見タイ、私ノハ作間君ノト違ッテ別ニ當、不當ト云フコトニ付テ御伺スルノデナク、參考ノ爲ニ計算ノ基礎ヲ御伺致シタイノデアリマス、ソレハ先程作間君ガ質問サレタ元金保留据置ト、元金拋棄据置ノ場合ハ、謂フマデモナク元金ヲ拋棄スル場合ニハソレニ伴フ一ツノ代償ヲ被保險者ニ與ヘナケレバナラヌ、此掛金表ノ第一表カラ見ルト、此第一表ノ元金拋棄据置年金ノ豫定利率ノ場合、五十開始ノ年齡十二百五十圓七十二錢ニナッテ居ル、一方同シ利率五分デ元金保留据

置年金ノ場合ニハ同ジ十二歲五十歲開始ノ場合ニハ百六十八圓四十七錢デアアル、元金保留ヲ基本トシテ元金拋棄ノ方ノ掛金額ヲ割出スト云フト、私ノ計算デハ約一割一分バカリノ利益ニシカ當ッテ居ナイ、之ニ就テハ政府トシテモ凡ソノ計算ノ基礎ガアルダラウト思フ、參考ノ爲ニソレヲ伺ヒタイ

○今井田政府委員 ソレハ皆年齡ニ依テ違ヒマス、平均シテ幾ラト云フコトハ出來ナイノデアリマス

○作間委員長 私人一寸伺ヒマスガ、私ノハ一般的デナク、同ジ金額デ同ジ年齡ノ者ガ一方ハ元金保留ノ契約ヲ爲シ、一方ハ元金拋棄ノ契約ヲシタ場合ノ掛金ノ割合ガドレダケ違フカ、之ヲ政府委員ニ伺ヒタイノデアアル

○今井田政府委員 是ハ一々ノ比較ヲ取ッテ居リマセヌノデ年齡ニ依テ違ヒマス、此表デ申シマスレバ極ク極端ナ例ハ八十歲デ元金拋棄ニナルト四百四十八圓二十七錢デ、元金保留ノ方ハ六百九十圓九十一錢ト云フヤウニ、約三分ノ一位元金保留ノ場合ノ方ガ多クナッテ居リマスガ、何レ詳シイ事ハ調べマシテ申上グルコトニ致シマス

○石塚委員 私人一寸御伺致シタイ、契約者ニ對シテ貸付ヲ致シマス際ニ、其貸付ノ額ハ掛金ノ額ニ依テ決セラレルモノデアリマスガ、或ハ契約高ヲ基準トシテ貸付ケルノデアルカ、ソレガ一ツ、モウ一點ハ之ニ對スル利子

ハドレ程附クモノデアルカ、又何年位ノ年限デ貸付ケラレルノデアルカ、此三點ヲ伺ヒタイ

○今井田政府委員 貸付ノ高ハ元金留保ノ契約ニ限リマシテ貸付ケルコトニナル、即チ留保サレタ元金ヲ程度トスル意味ニ於テ貸付ケマス、隨テ留保サレタ元金ガ既ニ拂込シタ元金額ノ何割カラ増スト云フコトニナリマス、是ハマダ確定致シテ居リマセヌガ、約八割以内ハ貸セルカト考ヘテ居リマス、ト申シマスノハ金額ヲ貸スコトハ利子或ハ延滞料ト云フモノヲ見込シタ元金ニ相當スルモノダケシカ貸サレナイ、隨テ約八割以内ト云フ見當デアリマス、ソレカラ利子及期間ハ是ハ規則デ定メルコトニ致シテ居リマスカラ、隨テマダ確定シテ居リマセヌガ、豫定利率ガ五分、及ビ一時拂ノモノニナリマシテハ公債ノ時價ニ依テ定メルコトニナッテ居リマスガ、其豫定利率ニ近イモノヲ貸シタイ考デアリマス、尙ホ年金ハ簡易保險其他ノ例ニ依リ、種類ニ依テ或ハ一年、或ハ二年ト云フヤウニナッテ居リマス

○作間委員長 ソレデハ今日ハ此程度デ止メマス、次回ハ尙ホ質問ヲ繼續スルコトニ致シマス、其場合ニハ政友會諸君ノ御出席ヲ特ニ委員長カラモ今一應勸告致シマスガ、何ダカ政友會諸君ノ中ニハ政府カラノ參考書類ノ交付ガ遅カッタカラ、研究ノ餘地ガ無イト云フコ

トモ一ノ口實ニナッテ居ルヤウデアリ
マスカラ、政府委員ニ於カセラレテモ、
其邊ニ付テ豫メ諒解ヲ得ルヤウニ御努
メヲ願ヒタイノデアリマス、次ノ期日
ハ公報ヲ以テ御知ラセ致シマス、本日
ハ是ニテ散會致シマス

午後三時四十一分散會

大正十五年三月五日印刷

大正十五年三月六日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社